

事後評価結果（平成17年度）

担 当 課：道路計画第一課

担当課長名：淡中 泰雄

事業名	一般国道10号 <small>すえよし</small> 末吉IC関連	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局
起終点	自：鹿児島県曾於市末吉町大字諏訪方 <small>かごしまけんそおしすえよしちようおおあざすわかつ</small> 至：鹿児島県曾於市財部町大字南俣 <small>かごしまけんそおしたからべちようおおあざみなみまた</small>	延長	0.23km		

事業概要

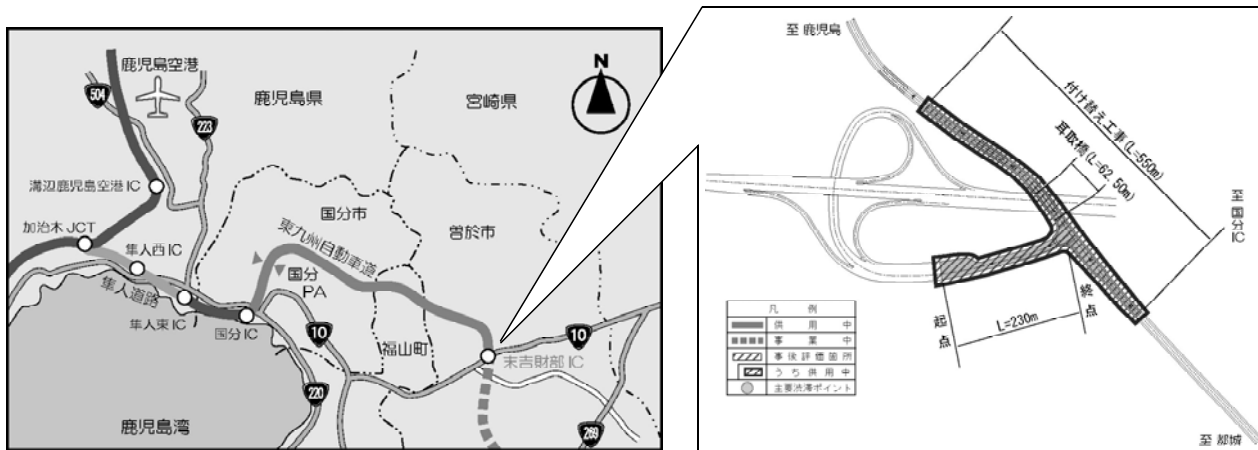
一般国道10号は、福岡県北九州市を起点とし、福岡、大分、宮崎、鹿児島の各県を結び、鹿児島市に至る延長約450kmの主要幹線道路であり、東九州地域の社会、経済、文化、産業、観光等の振興を図る上で重要な路線である。東九州自動車道は、一般国道10号に並走する延長約436kmの高速自動車国道である。これまで大分米良IC～津久見IC間、西都IC～清武JCT間及び末吉財部IC～隼人東IC間の合計約81.4kmが開通しており、このうち末吉財部ICから国分IC間(L=約22.5km)は平成14年3月2日に開通している。

一般国道10号末吉IC関連は、東九州自動車道の末吉財部ICと一般国道10号を連結する延長230mのインターアクセス整備事業であり、東九州自動車道末吉財部ICのランプ部において、料金所から一般国道10号との交差点までの区間(L=230m)の新設工事と、交差点設置に伴う一般国道10号の影響区間(L=550m)の付け替え工事を行うものである。

事業の目的・必要性

末吉IC関連は、東九州自動車道と一般国道10号を接続する事業であり、主要な交通結節点へのアクセス向上、信頼性の高いネットワークの形成、産業活動、緊急医療活動の支援などに寄与するものである。

事業概要図



事業の効果等	事業期間	事業化年度	平成8年度	用地着手	平成9年度	供用年	(当初) — / —	変動	倍
		都市計画決定	— 年度	工事着手	平成10年度	(暫定/完成)	(実績) — / H13		
	事業費 (IC関連のみ)	計画時	(名目値) — / 6.6億円	実績	(名目値) — / 11.4億円			変動	倍
	暫定/完成	(実質値) — / 億円		(暫定/完成)	(実質値) — / 億円			変動	倍
	交通量 (当該路線)	計画時	/ 台/日	実績	(暫定/完成)	— / 2,668台/日		変動	%
	暫定/完成								
	旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)	→	km/h	交通事故減少 (供用前現道→供用後現道)	→	件/億台キロ			
		(供用前年度)	年度	(供用後年度)	年度	(供用直前年度)	年度	(供用後年度)	年度
費用対効果分析結果 (当初)	B/C	総費用	億円	総便益	億円	基準年	年		
		事業費	億円	走行時間短縮便益	億円				
		維持管理費	億円	走行経費減少便益	億円				
				交通事故減少便益	億円				
費用対効果分析結果 (事後)	B/C	総費用	1142億円	総便益	2727億円	基準年	H17年		
	2.4	事業費	928億円	走行時間短縮便益	2287億円				
		維持管理費	213億円	走行経費減少便益	304億円				
				交通事故減少便益	136億円				

	事業遅延によるコスト増	費用増加額	億円	便益減少額	億円
	事業遅延の理由				
	客観的評価指標に対応する事後評価項目				
	<ul style="list-style-type: none"> 円滑なモビリティの確保(空港へのアクセス向上；曾於市～鹿児島空港 約71分→約57分) 安全で安心できるくらしの確保(三次医療施設へのアクセス向上；曾於市～鹿児島市立病院(三次救急) 約89分→約85分) 				
	他8項目に該当				
	その他評価すべきと判断した項目				
事業による環境変化	環境影響評価に対応する項目				
	その他評価すべきと判断した項目				
事業を巡る社会経済情勢等の変化					
<p>平成17年7月1日の曾於郡大隅町・財部町・末吉町の3町が合併し曾於市となった。地域の人口は減少傾向にあるものの、自動車保有台数は一貫して増加傾向にある。</p> <p>農業産出額における曾於市シェアが増加傾向にある。また、旧末吉町及び曾於市の製造品出荷額は平成14年以降増加傾向にある。</p>					
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性					
<p>事業効果の発現は「高速道路との結節機能」が確保され十分と判断されるので、今後の事業評価の必要はない。</p> <p>末吉IC関連により、東九州自動車道と一般国道10号が連結したことで、東九州自動車道(末吉財部IC～国分IC間)の事業効果は十分に発現されていると判断されるので、改善措置の必要はない。</p>					
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性					
<p>末吉IC関連は東九州自動車道の末吉財部ICと国道10号を接続する事業であり、接続位置の選定にあたっては、国道10号の道路構造、交通状況、事故や災害の履歴などを調査し、最適な接続位置を選定する必要がある。</p> <p>また、地域経済の活性化を支援するために、周辺の開発計画を考慮することも重要である。</p>					
特記事項					

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。